

船舶事故調査報告書

平成25年1月24日
 運輸安全委員会（海事専門部会）議決
 委員 横山 鐵 男（部会長）
 委員 庄 司 邦 昭
 委員 根 本 美 奈

事故種類	火災
発生日時	平成24年6月25日 10時40分ごろ
発生場所	長崎県対馬市鹿見港内 対馬市所在の上県灯台から真方位158°6,000m付近 （概位 北緯34°30.9′ 東経129°18.8′）
事故調査の経過	平成24年6月26日、本事故の調査を担当する主管調査官（門司事務所）ほか1人の地方事故調査官を指名した。 原因関係者から意見聴取を行った。
事実情報 船種船名、総トン数 船舶番号、船舶所有者等 L×B×D、船質 機関、出力、進水等	漁船 菊吉丸、4.9トン NS3-800082（漁船登録番号）、個人所有 13.54m (Lr) × 2.66m × 0.83m、FRP ディーゼル機関、448kW、平成15年10月4日
乗組員等に関する情報	船長 男性 63歳 一級小型船舶操縦士・特殊小型船舶操縦士・特定 免許登録日 昭和50年11月21日 免許証交付日 平成22年10月8日 （平成28年2月6日まで有効）
死傷者等	なし
損傷	機関室の電気配線、中継ボックス、バッテリー、壁等及び安定器室の電気配線等が焼損
事故の経過	<p>本船は、鹿見港の岸壁に右舷着けで係留中、いか一本釣り漁に切り替えるため、船長が友人ら3人と共に平成24年6月25日08時30分ごろ右舷側に巻揚機2台を設置する作業に取り掛かり、10時35分ごろその作業を終え、次に左舷側に設置する巻揚機2台を岸壁から搬入しやすくするため、回頭して左舷着けすることにした。</p> <p>船長は、操舵室においてキースイッチを操作して主機を始動し、回頭して岸壁に左舷着けしたのち、船首部において係留作業を始めたところ、10時40分ごろ、アイドル運転中の主機が停止し、機関室両舷の空気取入口から煙が出ているのに気付いた。</p> <p>船長は、操舵室の配電盤に設けられた主機用及び船内用の各バッテリーの電源スイッチを切り、操縦席後方の床に設けられた機関室出入口の蓋を開けたところ、炎は見えなかったものの煙が出てきたため、</p>

	<p>操舵室に置いていた持運び式消火器を使用して初期消火に努めたが、大量の煙が出てきたので消火不能と思って蓋を閉めた。</p> <p>船長は、周囲の船に延焼させないために本船を移動することとし、小型船に親族 1 人と乗り、本船を沖の防波堤に向けてえい航を開始した。</p> <p>岸壁にいた漁業者 2 人は、本船の火災に気付き、小型船に自動消火器と持運び式消火器を持ち込んで本船を追走し、本船に接舷後 1 人が乗り移って機関室出入口の蓋を開け、持運び式消火器を放射状態として自動消火器と共に機関室内に投げ込み、その蓋を閉めたところ、直後の 11 時 15 分ごろ本船は鎮火した。</p>
気象・海象	<p>気象：天気 晴れ、風向 北東、風力 4、視界 良好</p> <p>海象：海上 平穏</p>
その他の事項	<p>本船は、甲板下に船首方から順に魚倉、機関室、安定器室、魚倉が配置され、機関室の上方に操舵室が設けられており、機関室後部に 24V 電源の主機用バッテリーが、安定器室に安定器のほか 24V 電源の船内電源用バッテリーがそれぞれ設置されていた。</p> <p>主機制御系統の電気配線は、他系統の電気配線と共にバンドにより束ねられて機関室後壁に取り付けられていたが、本事故後に点検したところ、溶断して短絡痕が認められた。</p> <p>機関室には、ビルジが溜まることはほとんどなかった。</p> <p>本船は、電気機器及び電気配線の絶縁抵抗測定が行われたことがなかった。</p>
<p>分析</p> <p>乗組員等の関与</p> <p>船体・機関等の関与</p> <p>気象・海象の関与</p> <p>判明した事項の解析</p>	<p>不明</p> <p>あり</p> <p>なし</p> <p>本船は、鹿見港の岸壁に係留中、主機制御系統の電気配線が短絡したことから、被覆材が発火して他の可燃物に延焼したものと考えられる。</p> <p>主機制御系統の電気配線は、機関振動等により他系統の電気配線と束ねられている箇所の被覆材が破損して短絡した可能性があると考えられるが、焼損が激しくその状況を明らかにすることはできなかった。</p>
原因	<p>本事故は、鹿見港の岸壁に係留中、主機制御系統の電気配線が短絡したため、被覆材が発火して他の可燃物に延焼したことにより発生したものと考えられる。</p>
参考	<p>本船は、本事故後、機関室の天井に自動消火器を新設し、バンドにより束ねられている箇所の電気配線には、被覆材が擦り減ったりしないようにゴム板を装着した。</p> <p>今後の同種事故等の再発防止に役立つ事項として、次のことが考え</p>

	<p>られる。</p> <ul style="list-style-type: none">・ 電気機器及び電気配線は、定期的に絶縁抵抗測定を実施すること。
--	--